

今 年1月、長年勤務した外資系生命保険会社を卒業し、ヘルスケアの会社に転職した。50代半ばで新たな業種への転職である。また、4月から筑波大学ロースクールの既修コースに入学した。ともに、これからの人生を楽しむために悩みぬいた末の決断であった。転職1年目でロースクールに通うことを快諾してくださった上司と部門のメンバーには本当に感謝している。

私がロースクールに入学した理由は、大学卒業以来携わってきた企業法務の仕事の集大成としてもう一度法律の基本を学び直し会社に貢献したい、また、弁護士資格を取得して将来組織を離れた後も（細々とでも）一生仕事していきたいと思ったからである。若手の方もベテランの方も、日々のお仕事に懸命に取り組むつつ、将来のキャリアについて悩んでいらっしゃる方々も多いのではないかと思います。私の拙い現状報告が、少しでも参考になれば幸いです。

ま ず、日々の生活であるが、言うまでもないことであるが、仕事が第一である（特に私の場合、転職1年目であり、会社の方々の信用を得なければならない）。仕事で結果を出すということを前提に、夜間（平日3日～4日、18時20分～21時）と土曜日、茗荷谷まで通学するのは、体力・気力の勝負と言える。授業のある日は朝8時頃出社して夕方17時30分頃退社する。21時に授業が終わり22時30分頃帰宅し、23時30分頃就寝して翌朝5時過ぎに起床するという生活である。授業で出される課題は、通勤・帰宅の電車の中、授業がない日の夜（週1日程度）、日曜日をフル活用して何とかこなしていく。非常に時間的余裕がなくタイトな生活ではある。

しかし、学校は楽しい。筑波の先生とスタッフの方々は、働きながら勉強する生徒達に寄り添い、とても熱心に教えサポートして下さる。先生方の教え方は、会社でメンバーを指導する際の重要なヒントを与えてくださる。授業は理論だけでなく実務の観点も多く取り入れられ、具体的な事例を基にどのように問題解決すべき

かをディスカッションする。具体的な事例の問題解決は、まさに企業法務に求められているものであり、先生やクラスメートのさまざまな意見を聞きつつ精一杯考えてアウトプットする訓練は、実務との間で大きなシナジー効果を生むと思う。

また、前述したタイトな生活を助けてくれるのは、一緒に勉強している仲間である。同期入学の既修者は9名、未修者は26名、筑波は社会人のロースクールであり、20代から60代の女性・男性、会社役員、公務員等、バックグラウ

法務の眼 Legal Eyesight

法務の目標——学びの場に身を置いて

HOYA 株式会社 アイケアカンパニー
法務・コンプライアンス室 室長

西辻啓介 (Keisuke Nishitsuji)

ンドは多様である。しかし、共通しているのは、仕事や家庭等と勉強とを両立させようと必死に頑張っている「大人」であり、人間的に魅力溢れる方々である。既修者の同期は特に仲が良く、「大変だけどみんなで助け合って最後までやり抜こう」と結束している。このような雰囲気であるから、授業でわからないところや出された課題等についても意見交換し合う。また「自酒ゼミ」と称してご飯を食べながら将来の夢を語り合うことも多い（弁護士として法律事務所や企業で活躍したい、社会問題に取り組み困っている人を助きたい等、こちらも多様である）。

最 後に、企業法務も法律の分野だけでなく経営に提言していく役割が求められている。経営に関わっていくためには、さまざまな見方・考え方に触れ、人間としての視野を広げることが重要である。社会人ロースクールで、法律の知識・実務を鍛えながら、年齢にかかわらずさまざまな人と交わって視野を広げていくことは、有意義な選択肢の一つであると思う。